

地球温暖化による沿岸漁場環境への影響評価・

適応策検討調査委託事業（概要）

増養殖環境課 明神 寿彦

1 目的

水温自動観測ブイを用いたリアルタイム沿岸漁場環境モニタリングを実施し、地球温暖化の傾向を捉えるとともに、地球温暖化が沿岸環境に及ぼす影響の実態を把握し、評価する手法を開発することを目的とする。本事業の平成 20 年度報告書で詳細を報告したので、ここでは概要を記述する。

2 事業の概要

平成 21 年 1 月 7 日に宿毛湾の養殖漁場に水温の自動観測ブイを設置した ($32^{\circ} 53.936'$ N、 $132^{\circ} 40.650'$ E)。設置場所の水深は 46m である。1、5、10、15、40m の 5 層の水温が 10 分ごとに測定される。これらのデータは 2 時間ごとに送信され以下のサイトで閲覧できる。

パソコンでのアクセス <http://buoy.nrifs.affrc.go.jp/>

携帯電話でのアクセス <http://buoy.nrifs.affrc.go.jp/k/>

また、黒潮系暖水の波及状況を把握するために、記録式水温計を古満目等の定置網に設置した。さらに、地球温暖化の影響を評価するための基礎資料とするために、既往の知見やこれまでの様々な調査によって得られてきた情報を収集、整理するとともに、藻場分布調査やキビナゴ市場調査などを実施した。これらについては、継続中であるので来年度以降に報告する。

3 結果

自動観測ブイで得られた水温の変動を図 1 に示した。ブイ設置後、水温は徐々に下降していたが、1 月中旬と 2 月中旬に急激な上昇が見られた。これは黒潮系暖水の波及によるものと判断された。1~15m の 4 層の水温はほとんど同じ値であった。40m 層の水温も他の層とほぼ同じであったが、急激な上昇がみられた際には、他の層よりも遅れて上昇したことが分かる。漁業者はこのような現象をリアルタイムに把握できるようになり、これらの情報を活用することが期待される。

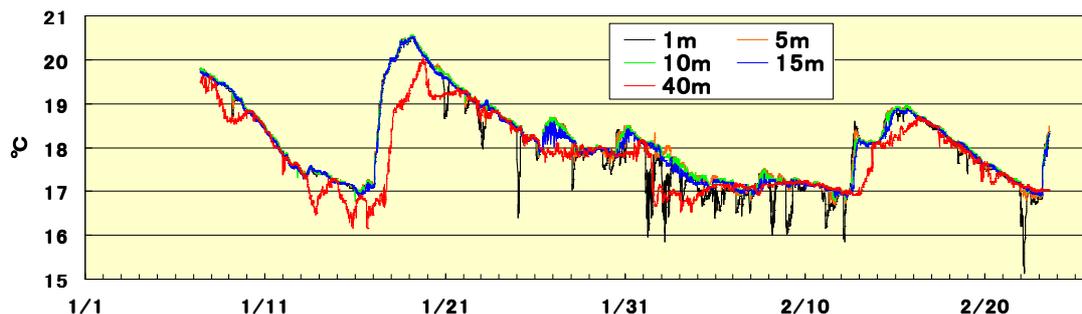


図 1 自動観測ブイで得られた 1、5、10、15、40m 層水温の変動